

2016年度 相模女子大学・相模女子大学短期大学部
自己点検評価結果報告書

1. 総論

(1) 本学の自己点検・自己評価

2016年度は短期大学部が短期大学基準協会の認証評価を受審するために、自己点検評価実施委員会を中心に点検・評価活動を行った。今年度に入って「相模女子大学短期大学部自己点検・評価報告書」としてまとめ、協会へ送付し、10月5日・6日の両日、訪問調査も実施された。評価結果はまだ出ていないが、点検評価を通して、いくつかの課題はあるものの、短期大学部の教育活動が充実したものになっていることは確認されたと考えている。

また今年度は2年に一度の教員評価を実施した。自己評価調査表の提出は完全に定着し、各学部長による評価も安定した形となり、異議申し立てもなく完了した。

大学・短期大学部の恒常的な自己点検としては、例年同様各学科から昨年度の教育活動報告が提出され、それを各学部長が取りまとめたものを、自己点検評価委員会にて報告し、意見交換を行った。また、外部の視点からの意見を聴取する目的で、包括協定を結んでいる相模原市の協力を得ている。その結果については別途報告される予定である。

(2) Sagami Vision2020の全体的な実施状況

学校法人相模女子大学は、創立120年となる2020年に向けて、総合的な発展計画としてSagami Vision2020を掲げ、その実現に取り組んでいる。具体的な内容は、2015年度に提示した「中長期基本計画」に示されているが、そこでは大きく6つの目標が挙げられ、それぞれについて具体的な施策や改革が進められている。以下にその進捗状況、特に昨年度の顕著な動きと今後の課題を総括する。

①教育目標の共有と具現化

2010年に掲げたスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を本学のブランディングの要として、その内外への周知と具現化に取り組んでいる。具体的には「さがみ発想講座」や「発想コンテスト」などの発想教育とさまざまな地域連携活動を本学の教育の特色として定着させ、「見つめる、見つける」力をつけることを目指してきた。2016年度の「発想コンテスト」より併設高等部からもアイデアを募集し、高等部生が準グランプリを受賞しており、学園全体で「発想力」育成に取り組む姿勢が示している。また地域連携活動にも高等部生の参加を取り入れた企画を計画した（今年度実施）。

②新しい教育体制の確立

学部学科改編を視野に入れた本学のあり方については、学芸学部子ども教育学科の

改編について検討したが、当面見送りとなった。情報分析のための IR 推進室を設置し（今年度より法人組織に移行）、検討を重ねてはいる。一方、現状の学部学科構成のなかの新たな展開として導入した「学科横断プログラム」（副専攻）が 3 つのコースでスタートした。

③教育課程の整備と教育内容の向上

発想力育成や基礎学力の定着、そして社会人基礎力などキャリアにつながる力の育成を柱とした共通教育科目の新カリキュラムが 2018 年度から実施されることとなった（正式決定は 2016 年度中には間に合わず今年度 7 月に最終決定）。従来の「女性総合講座」（半期）を「さがみ総合講座」として通年展開とし、発想力育成や地域を知る活動など本学の特色をより明確に理解できる内容とするほか、「社会人基礎力向上科目群」の設定、語学科目の充実を特色としており、一方で従来のいわゆる教養科目について一部整理・統合等の見直しを行った。

また国際交流については、秋学期に台湾文藻外語大学より 1 名の留学生を受け入れた。授業のほか、地域連携活動にも参加するなど、充実した学生生活を過ごしてもらえたと考えている。今年度も 1 名ではあるが通年で同大学から留学生を受け入れている。正規の留学生ではないが、提携校であるカリフォルニア州立大学チコ校から派遣された学生 1 名が約 2 か月（6 月から 7 月）滞在し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科の授業補助を行うとともに本学学生とさまざまな交流を行った。これも今年度継続している。こうした交流、外国学生の受け入れをさらに増やす方策を検討している。

④学習環境の整備

4 月に開設された教職センターは、センター長はじめセンター教員の尽力と関係各学科の協力により、各種講座の開設をはじめ、教員試験対策など、教職を志望する学生にとっての環境は大幅に改善した。就職実績等の成果も十分に期待できる。また、人間社会学部で導入した社会福祉士課程についても指導室を開室し、課程を希望する学生への対応を充実させている。全体に関わるものとしては、入学前教育において基礎学力確認のための E ラーニングを導入し、一定の成果を挙げた。このシステムは今年度初年時教育への導入も試行している。

⑤学生支援の充実

学生支援の充実や学生対応の向上については継続して努力している。また、定時制・通信制高校等からの入学者を対象に入学前の懇談会を実施した。これはそうした高校の出身者の退学率が高いというデータをもとに、該当する学生からの聞き取りなどを経て実施に至ったもので、効果はまだわからないが、参加者は予想より多く、反応も良好だ

った。

⑥入学者増に向けた募集の戦略と戦術を策定

オープンキャンパスの充実には継続して取り組み、2016年度は参加者が増加し、最終的な入学者も前年度からは大幅に増やすことができた。

(2017年10月自己点検・評価委員会、大学評議会にて承認)